

第8回 JR肥薩線検討会議

令和6年6月18日（火）

16：00～16：45

熊本県防災センター 2階

災害対策本部会議室

議事次第

1. 開会

2. 議事

（1） 最終合意までのロードマップについて

（2） その他

3. 閉会

J R肥薩線検討会議構成員名簿

(順不同、敬称略)

【構成員】

かめざき
亀崎 なおたか
直隆 熊本県 副知事

おかの
岡野 まさこ
まさ子 国土交通省大臣官房審議官（鉄道）

もりと
森戸 よしたか
義貴 国土交通省九州地方整備局長

よしなが
吉永 たかひろ
隆博 国土交通省九州運輸局長

まつした
松下 たくま
琢磨 九州旅客鉄道株式会社
取締役常務執行役員 総合企画本部長

【事務局】

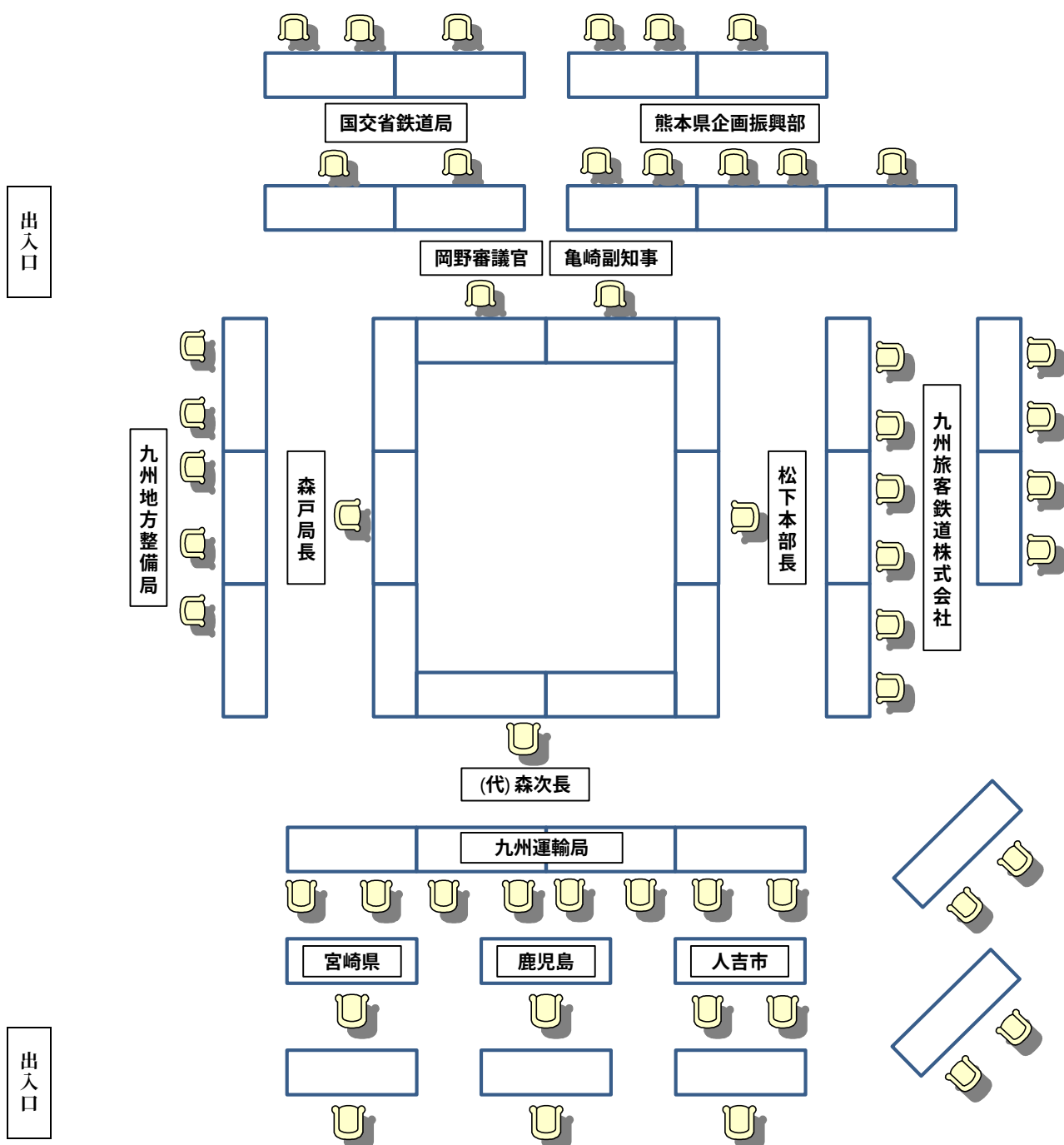
国土交通省鉄道局、熊本県企画振興部

(令和6年6月時点)

第8回JR肥薩線検討会議 配席図

日時：令和6年6月18日(火)
16:00～16:45

場所：熊本県防災センター
2階 災害対策本部会議室



JR肥薩線

プロダクトマップが最も効果的な戦略

資料 1

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1.検討会議・再生協議会			★ 再生協議会					必要に応じて ★ 再生協議会 ★ 検討会議			★ 再生協議会 (最終報告)	★ 検討会議 (最終合意)
2.「観光を軸とした日本一の地方創生モデルの実現」と「マイルール意識の醸成による日常利用の創出」の具 体化			●プロジェクト推進ワーキンググループ設置 具体施策の詳細化・加除等 国庫補助を活用した調査委託事業の実施 具体施策のアクションプラン（仮称）策定 機運醸成の取組み（シンポジウム開催、肥薩線サポーター制度創設等）									
3.復旧や運営のあり方、数値目標の設 定・管理等の協議			最終合意に向けたスケジュール確認 具体的な復旧方針、運営形態の精査 数値目標及び検証手法の検討									
4.復旧工事の協議			事業間連携に向けた意見交換、鉄軌道法に基づく災害復旧事業の取扱確認									
	最 終 合 意											

I-(1)-④ JR肥薩線鉄道復旧の推進

【マニフェストの実現】

予算額20百万円（10百万円）

JR肥薩線鉄道復旧調査・検討事業

〔交通政策課〕

- 令和2年7月豪雨により運休が続くJR肥薩線について、令和6年4月4日、JR九州との間で『JR肥薩線（八代～人吉間）の鉄道での復旧に関する基本合意書』を取り交わし、鉄道での復旧を目指す方向性について合意した。
- 復旧後の利活用促進策について、調査・検討を行い、「観光による振興」と「日常利用の創出」の双方で具体化・深度化し、令和6年度中の最終合意を目指す。

<現状・課題>

- 第5回検討会議（R5.12.13）
県が主体となって地元自治体と共に取りまとめた「JR肥薩線復興方針(案)」を国・JR九州に提示。
- 第6回検討会議（R6.2.13）
JR九州から「復興方針に掲げる『観光による振興』に加えて『沿線の方々の肥薩線に対するマイレール意識の醸成による日常利用の創出』を2本の柱として考える必要がある」という考えが示された。

○ 第7回検討会議（R6.4.3）

「観光利用」に加えて「日常利用」にもしつかり取り組むこととし、鉄道復旧の方向性について合意。

→ R6.4.4 基本合意書の取交し

高度で専門的な調査・検討を行い、復旧後の具体施策やその役割分担を検討する。「観光利用」、「日常利用」の両面から施策を深度化し、令和6年度中の最終合意を目指す。

<事業概要>

- 全体事業費：20百万円
- 事業内容：復旧後の利活用促進に向け関係者が取り組む施策の具体化・深度化のための調査及び調査内容の踏まえた関係者間での施策の協議・とりまとめを行う
- 負担割合：国1/2、県1/2
- 事業主体：県（JR肥薩線検討会議、JR肥薩線再生協議会）
- 事業期間：令和4～6年度

<イメージ図>

《実施体制》



検討事項の共有

観光利用

県・JR・市町村などで構成するワーキンググループで検討

県

委託

シンクタンク

日常利用

《取組みの例》

- ・ S L 人吉に代わる観光列車
- ・ 駅周辺の街並み整備 など



観光利用

- ・ 駅からの二次交通の整備
- ・ くま川鉄道との連携 など



日常利用

令和6年度中の
最終合意を目指す

J R肥薩線プロジェクト推進ワーキンググループについて

J R肥薩線の鉄道復旧のため、令和6年6月10日にプロジェクト推進ワーキンググループの第1回会合を実施。

前半の全体会合では、基本合意までの経緯や復興方針に記載の29の施策を共有し、今後の進め方などを確認。

後半は観光利用部会・日常利用部会に分かれて協議。観光利用部会では、J R只見線の取組みを紹介し、今後の議論のための共通認識を図った。日常利用部会では、「隼より始めよ」をテーマに公務・私用を問わず、J R肥薩線の利用について自分自身に何ができるのかを考えた。



全体会合で経緯や進め方を確認



観光利用部会ではJR只見線の事例を共有



日常利用部会の様子



参加者全員でアイデアを共有



JR肥薩線の鉄道復旧のために頑張ります！